

## The 9<sup>th</sup> ESG Conference with the Annual Meeting of the ICG 参加報告

日本電気硝子株式会社 研究部

吉田紀之

### Report on the 9<sup>th</sup> ESG Conference with the Annual Meeting of the ICG

Noriyuki Yoshida

*Research and Development Division, Nippon Electric Glass Co., Ltd.*

2008年6月22日から26日にかけてスロヴァキアのトレンチーンで第9回 ESG Conference が開催された。なお ESG は隔年開催の会議であり、今回は ICG (International Congress on Glass) の年会も兼ねていた。トレンチーンはスロバキアの北西に位置し、人口は6万人弱の小さな都市である。電車を利用するとウィーンから約3時間、スロヴァキア的首都ブラチスラヴァから約1時間で行くことができる。市の中心に位置するミエロヴェー広場にはルネッサンス様式やバロック様式の建物が数多く残されており、その広場から程近い City Congress Center を中心に会議が行われた。スロヴァキアは日本と同じように四季があるそうだが、会議開催中は比較的好天に恵まれた上に気温も高く、日本の初夏を思わせる気候であった。また夏至に近いこともあり、午後9時を過ぎても周囲は明るかった。

22日は朝から10以上の TC (Technical Committee) が開催され、各 TC で活発な議論が

わされた。筆者自身も TC 14 (Gases in Glass) のメンバーとして参加したが、ヨーロッパにおいて TC のような基礎的で非競合な分野の調査・研究に対する議論の場が広く提供されていることはつねづねうらやましく思う。その後、トレンチーンの名所の一つであるトレンチーン城に場所を移し、ウェルカムレセプションが催された。城から見下ろした色鮮やかで美しい町並みは印象深い景色であった。

23日のオープニングセレモニーでは顕著な業績をあげた若手研究者に贈られる Gottardi



トレンチーンの町並み

〒520-8639 滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号

TEL 077-537-8773

FAX 077-537-1709

E-mail: nyoshida@neg.co.jp

Prize が京都大学の藤田准教授へ、また TC の活動に対する多大な貢献を称えた Turner Award が TC 18 のチェアマンである Prof. Beerkens へそれぞれ授与された。続いてプレナリーレクチャーの一つとして Round Table Discussion が行われた。今回の ESG では“Glass-The Challenge for the 21<sup>st</sup> Century” というテーマが掲げられていたが、この Round Table Discussion はそれを反映した内容であった。まず、Schott AG の Dr. Hünlich, British Glass の Mr. Stockdale, Saint-Gobain の Dr. Tuckles 及び VŠCHT の Prof. Němec の 4 氏によるプレゼンテーションが行われ、次に質疑応答が繰り広げられた。EU では京都議定書で定められた温室効果ガスの排出削減量よりも更に厳しい目標を設定し、それに取り組んでいるが、ガラス産業界にとってはまさしく Challenging な数値であり、何らかの技術革新が必要であるとの意見であった。また、REACH 規制では特殊ガラスの製造に不可欠な原料である Boric acid や Borates がカテゴリー 2 (生殖能力や人体の発育に毒性の影響を与えることが科学的に証明されている物質) に指定されており、今後の安定的なホウ素原料の利用に懸念が示された。さらにガラス産業はエネルギー多消費型産業ではあるものの、文明の発展に貢献しているというプラスの側面をアピールすることの重要性が説かれた。また ICG にはガラス業界が抱える環境問題に対して主導的な役割を果たすことへの期待が示された。このような環境問題に対する取り組みは日本においても同じく必要であるが、正直なところヨーロッパに比して日本の環境問題に対する認識は低調であると感じた。

午後のプレナリーレクチャーでは、藤田准教授が“Photon Localization in Porous Materials: Novel Random Media for Light” というタイトルで Gottardi Prize の受賞講演を行った。23 日の午後から 25 日にかけて 3 つの会場に分かれて合計 10 のセッションでそれぞれの発表が

行われた。プログラム上での発表件数は口頭が 107 件、ポスターが 79 件であった。開催国であるスロヴァキア及びその隣国であるチェコからの参加者が多かったが、日本からも 15 名程度が参加した。プロシーディング (口頭発表のみ) を集めた冊子の中身も充実しており、各発表に対して 4~5 枚割かれていた。パラレルに発表が行われていたことに加えてサテライトイベントも同時に開催されており、参加者の関心に応じて効率よく聴講できるように構成されていた。

プログラムの一環として、23 日には ICG の 75 周年を祝うセレモニーと女性 3 人によるエレクトリック・ヴァイオリンの演奏、24 日にはスロヴァキアのフォークダンスとワインテイステイングが催された。このフォークダンスは Lučnica というスロヴァキアでは非常に有名なバレエであり、ダンスそのものはもちろんのこと衣装や音楽も素晴らしく、鑑賞後には観客がスタンディングオベーションを送るほどの内容であった。このようなプログラム通じてスロヴァキアの文化・芸術の一端を知ることができるように配慮されていた。

余談ではあるが、ESG の期間中は EURO 2008 が開催されており、会議の合間には学術的な話よりも、サッカーの話題で盛り上がる事が多かった。バンケットの夜にはトルコ対ドイツの準決勝が行われたが、早々にトルコの

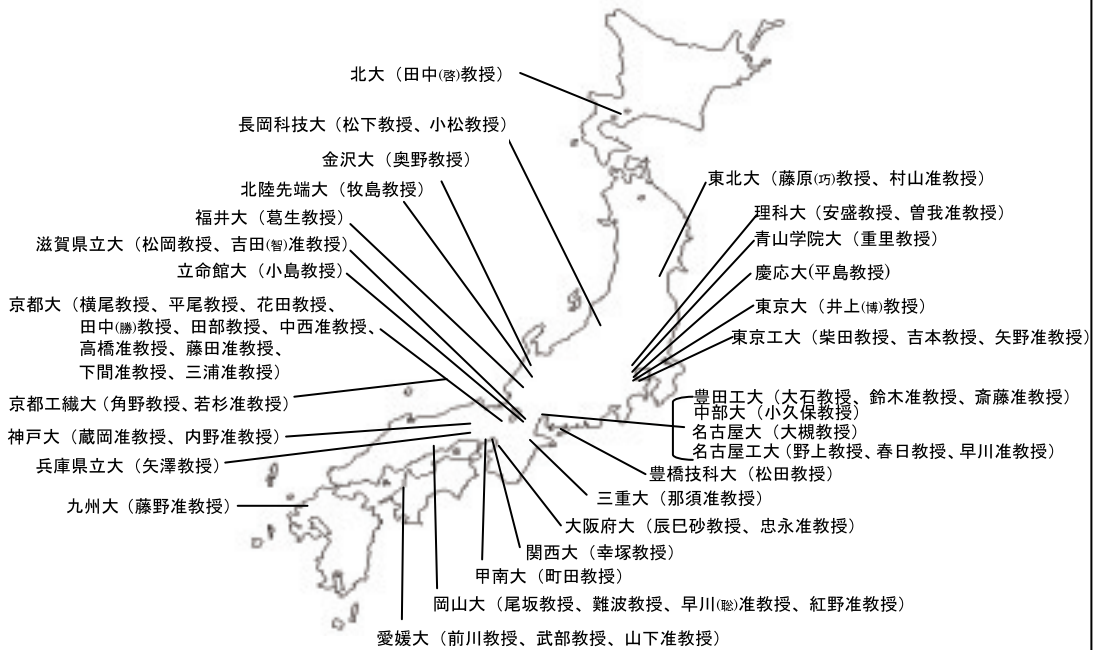


フォークダンスでの一場面

方々が退席し、サッカー観戦へと向かった姿が印象的であった。“よく学び、よく遊べ”であった。

次回の第10回 ESG は2010年にドイツで開催されるとのことである。

日本の大学のガラス研究者地図



(2008年8月の教授及び准教授を掲載：ニューガラスフォーラム作成)